

# あおぞらだより

第108号 (発行/平成24年5月)

特集 : お花見会

## 灰色

江戸川病院院長 新村ヨシオ



灰色は黒色と白色の中間色である。白とも黒ともつかないと判断された時などは、灰色の決着と表現される。希望がもてず暗い印象を与える時には灰色の人生などと言い表すことがある。いずれにしても灰色は良い意味に使用することはない。嫌疑がかかっている人にも灰色の高官とか政治家と報道されたりする。現代風と言えば、あの人は限りなくグレーであると評されれば、有罪に近い

ことを推測される。国民性としては物事が灰色であっても、黙認できるのが日本文化の特徴ともなっている。二者択一を迫られても「どっちでもいい」と答えたり、灰色に耐えられる国民なのである。なかでも医療・介護・年金の政策でも同じことが言え、医療と介護の区別が不明瞭になっているが、その点検や検証そして訂正はない。医療業務の一環として介護が必要になってくるのであるが、今では制度上は医療と介護は独立したものとなっており、医療の必要な人が介護施設に入所している。

灰色を求められるのは、政治の世界で日常的に垣間見ることができる。政策は与党と野党との駆け引きで、各党の手柄となるように取り

(・・・次ページに続きます)

ひきするので、国民が満足できる解決はしない。その党利党略の手法が灰色の結着になってくる。医療費の高騰や健康保険の財政圧迫で身動きができなくなったと介護保険の導入が簡単に受け入れられ、介護に未来があると誘導し、規制緩和して営利法人の株式会社まで業界に参入させ、今では介護界を席捲している。接遇をはじめ、介護の内容も手引書を徹底し、介護者を教育して高度な知識を詰めこんで、看護師に近い技量を求めている。介護施設で経管栄養や胃瘻管理そして点滴や痰の吸引、それに臨終の看取りまで可能とする方向で議論され、実施されている行為もある。施設間での技術の格差も生じており、現場は試練に直面させられている。

灰色になるのは政策が主となるからで、制度を利用する国民の目線で考えていないことである。医療は包括医療となり、急性期を脱したら入院は継続できず、早期に退院しなければならない。それは入院目的となった疾患以外は新たな治療は根治的治療はしないので、入院期間が決められてしまうからだ。そのために早期から退院支援が始まり、追い出されるようにして病院を去っていくことになる。行き場を失った患者で在宅医療が困難な人は、介護施設を探さなければならず、簡単には受け入れられないので、苦労を余儀なくされる。施設に入所しても合併症が出現すれば急遽入院となり、また介護施設や療養病棟に転院するなどの悪循環になってしまう。

灰色と思えるのは医療と介護の棲み分けが明確でない。国の政策の曖昧さであり、介護施設の乱立もあり、内容が伴わない施設も医療に近い仕事を職員に押しつけることになっている。施設でも、高度の介護技量そして医学的知識も要求されているのに対価報酬は少なく、人手不足になっている。国としては介護保険は自治体が保険者になっているので深刻味はなく、医療費削減の目的で介護政策を押しつけただけで国民の利便性までは考えていない。国の介護保険の発想と実行は、自身として評価しているが、医療と介護の理念は理想的であっても、現実的には医療を施すべき人が介護施設に送られてしまう人も存在する。それよりも介護施設に医療的行為を許可し、病院の代用とすることが好ましいことなのか疑問を感じている。国の灰色の施策に疑義を抱いている。介護や医療の単価も諸外国と比べて格差が大きいままである。医師・看護師・介護士・薬剤師・精神保健福祉士・臨床心理士を揃えている病院と基準の緩い施設の基本料が近似していることも灰色にしたままである。政治力のない医療界は暗雲が垂れこめ灰色になっている。

## お花見会 ～よさこいソーラン「魁」さんを迎えて～

4月14日(土)はグラウンドでお花見会の予定でしたが、生憎の雨模様のため、屋内でよさこいソーランのボランティア「魁(さきがけ)」さんの踊りを見ました。躍動感溢れる踊りを間近で見て、患者様も「パワーをもらった」と仰っていました。最後は職員、デイケアのメンバーさん、患者様も混じってソーラン節を踊りました。

又、振替日で予定していた4月21日(土)も気温が低かったため中止となってしまいましたが、患者様たちは他の日の作業療法プログラムでグラウンドに出る機会を作り、桜を見ることができました。



## 医療安全勉強会の様子

4月27日(金) 15:30 より、医療安全についての職員研修会を行いました。今回は「介護場面で起こりやすい骨折」などをテーマにし、スライドをや資料を見ながら安全についての理解を深めました。



## 桃源 誕生会

認知症治療病棟「桃源」では、4月28日(土)に誕生会を行いました。D棟にはフルート・クラリネットのトリオ「ツェルコバアンサンブル」さんが来て下さり、E棟では病棟看護師のお孫さん、お子さんが来院し、ピアノ演奏を披露して下さいました。



春になり、沢山の花々が  
一斉に芽をつけ始めまし  
た。桜の季節が終わり、今  
は藤、ツツジ、牡丹の花な  
どが見頃になっています。

冬の間は水底に潜ってい  
た鯉も上に出てくるよう  
になり、患者様やご家族様  
の目を楽しませていま  
す。



## 江戸川病院 5月行事予定

### 誕生会

2-1棟	5月19日(土)14:00~	病棟
1棟	5月22日(火)10:00~	病棟
3-2棟	5月23日(水)14:00~	病棟
D棟	5月26日(土)14:00~	D棟訓練室
E棟	5月26日(土)14:00~	6階ホール
2-2棟	5月28日(月)14:00~	病棟

さくらんぼシアター 5月15日(火)14:00~ ひまわり

### 編集後記

(医療相談室)

新緑のまぶしい季節を迎えました。

しかし、五月晴れの日々とはなかなか行かないようです。竜巻被害の大きさには、目を覆うばかりです。心からお見舞い申し上げます。

当院においては、厳しい冬をのりこえ、おかげさまで流行性感冒等の発生もみることなく春を迎えることが出来ました。

これからは、気温の上がり下がりの多い毎日が続きます。患者様の体調をお守りできるよう、スタッフ一同職務に励む所存です。

『あおぞらだより』に関するご意見・  
ご感想・ご投稿などは『医療相談室』  
までお寄せ下さい。(内線 238・292)

医療法人社団 全生会 江戸川病院

〒278-0022 千葉県野田市山崎2702

電話 04-7124-5511(代)

<http://www.edogawa-hp.com>